

令和6年度 第1回小松島市ごみ処理施設整備基本計画策定会議 議事要旨

日時：令和6年5月27日(月)10:00～

場所：小松島市役所 2階 議会委員会室

出席委員

上月委員、小川委員、蔭山委員、津川委員

会議に付した案件

- 議題 (1) 新ごみ処理施設整備に係るこれまでの経緯について
(2) 基本計画策定スケジュールについて
(3) 実績の推移について
(4) 施設整備に関する課題について
(5) リサイクル施設の整備検討について

議事要旨

委員長選出 委員の互選により、上月委員を委員長に選出。

- 議題 (1) 新ごみ処理施設整備に係るこれまでの経緯について
新ごみ処理施設整備に係るこれまでの経緯について報告。

委員意見 : 勝浦町のごみを処理することで、ごみ処理量が増えると思うが、施設面積が候補地の中に納まるかどうかの検討はしているのか。

事務局 : 基本構想の段階で、好気性発酵乾燥方式を考慮した施設面積を確保できる用地に設定しているので、心配は無いと考える。処理規模に関しては、基本構想の段階で38t/日と見込んでいる量から、小松島市の直近のごみ処理実績や新たな人口推計を考慮すると、小松島市単独で見ると38t/日からは下がると思うので、大きく変わらないと思う。去年の段階で、勝浦町の可燃ごみは概ね3t/日と見込んでいるので、最大でも41t/日となり、そこから直近の推計を見込んで処理規模が40tを下回るのかという所の議論になってくるかと思う。

委員意見 : これから小松島市の人口が増えることは、おそらく難しいと思う。人口が減ることでごみの量も減っていくので、ごみの処理施設はあっても、ごみ量が不足するという事態にならないのか心配である。

委員意見 : 好気性発酵乾燥方式は、ごみ量がある程度無いと困るという様な施設になっていないのか。ごみが減ることは悪くは無いと思うが、そのあたり

はどうか。

事務局 : 好気性発酵乾燥方式では、固形燃料を製造することになるが、固形燃料の引き渡し先が最低でもこれだけの量は欲しいとなることは、想定していない。ごみ量に応じた固形燃料を製造してそれを引き取ってもらうというような計画とすれば、大丈夫だと思う。

議題（２）基本計画策定スケジュールについて

基本計画策定スケジュールについて報告。

委員意見 : 昨年度の基本構想の中で、PFI 導入可能性調査が令和 7 年度に計画されているが、この施設は特殊な施設なので、DBO のように建設後運営していくところまで一括して民間にお任せするのかといったところも 1 つの施設整備計画のポイントになってくると思う。このあたりの事業方式を第 3 回あたりで検討するのか、若しくは PFI の可能性を来年に検討するのか教えていただきたい。

事務局 : 今年度中にどこまで公設公営や PFI 等を固めるのかについては検討中です。今年度中にある程度、固めきれようであれば、発表するが、もう少し精査が必要と判断した場合は、来年度に PFI の動向調査を行うというような、両にらみでスケジュールを立てている。

委員意見 : どこかの時点で、市民のパブリックコメントを出してもらった方が良いと思う。どの時点か分からないが、パブリックコメントの実施をしていただきたい。

事務局 : 昨年度策定した基本構想についても審議後の 1 月～2 月に掛けて、パブリックコメントを実施した。今回も 2 月の第 4 回の会議において計画案を委員に提示する予定となっているので、その後速やかにパブリックコメントを実施できればと考えている。

委員意見 : 運営手法は施設内容が決まって、ランニングコスト等も含めて計画が全て固まってからになると思うので、事務局から説明があった通り、両にらみにならざるを得ないと思う。パブリックコメントについては、必ず実施し、議会説明もしながら計画を固めていきたいと考えている。

議題（３）実績の推移について

実績の推移について報告。

委員意見 : 粗大ごみは可燃性、不燃性ともに増えているが、市民の生活のあり方が反映されているのか。

- 事務局 : 生活のあり方までは分かりかねるが、粗大ごみについては、今までは基本的には持ち込みでないと収集していなかったものが、申込制によって戸別で回収を依頼できることになったため、それまで出しそびれていたものが出しやすくなった点が増加した1つの要因であると思う。平成27年度の導入以降、今では年間6回、1回あたり原則5個まで粗大ごみを出すことができるので、申込制度が定着しているからではないかと思う。近年は、前年と比べて減っている年もあったと思うが、人口が減っているということもあるので、右肩上がりにはならないと思う。
- 委員意見 : 人口減少が原因ではなく、ごみ量が減っていれば嬉しいと思う。分別が進むことで、減少していることが理想であると思う。
- 委員意見 : 昨年度、小松島市の可燃ごみの原単位量が全国と比べて多いという状況だったと思うが、これについてはどうお考えか。
- 事務局 : 令和5年度と平成30年度を比較した時に、総量として約12%減っていると説明したが、原単位は約5.2%の減少、人口は約7.4%の減少ということなので、今のところ1人が出す量の削減効果よりは、人口減少による削減効果の方が大きい。1人1人が出すごみ量を減らす方向に持っていくことが理想かと思うが、分別を徹底すると、可燃ごみは減るが、資源ごみは増えるということもある。総量として減らせるような施策を講じていけばいいかと思うが、これらは一般廃棄物処理基本計画の方で検討したいと考えている。
- 委員意見 : 新しい施設の規模は、原単位量と人口の掛け算を行い算出するので、原単位量を全国レベルにするのかを、市政の中で方針としてしっかり持って市民の皆様に啓発していただきたいと思う。

議題（4）施設整備に関する課題について

施設整備に関する課題について報告。

- 委員意見 : エネルギー利用による付加価値の創出において、好気性発酵乾燥方式では、熱・電気を直接利用することはできないとあり、燃焼型では取り出すことができると思うが、好気性発酵乾燥処理ではどのような利用が考えられるのか。
- 事務局 : 焼却の方式と違って、発電して熱源を利用するというような直接的な創出は好気性発酵乾燥方式ではできないので、製造した固形燃料を全て売るのではなく、一部を小型のボイラを設置して、自家消費することで地域に還元できるような施設、例えば足湯等を作ることで付加価値を創出できないか検討している。

- 委員意見 : カーボンニュートラルを図ることについて、この方式では焼却しないので、二酸化炭素自体は排出減となり、これからさらに付加価値の創出となっているが、どういうことか。
- 事務局 : 好気性発酵乾燥方式によって、石炭等の利用を抑えることができるという点に加えて、施設の電気消費をさらに抑えるために、例えば施設に太陽光発電の整備等を行うことが考えられる。
- 委員意見 : パブリックコメントがあると思うが、これまでのところで、住民の方から意見をいただければ、教えていただきたい。
- 事務局 : 処理施設整備の基本計画の策定に加えて、一般廃棄物処理基本計画の改訂を行っており、アンケート調査を行う予定である。主眼としては、改訂のためのアンケートということになるが、関連する事項の中で、好気性発酵乾燥方式の導入も見据えた形での、ごみの分別のあり方などに関して、質問項目の中に挙げていこうと考えている。市民の意見というのを計画の中に反映することは可能と考えている。
- 委員意見 : 地域貢献のエネルギー利用について、燃焼施設ではないので、100℃以上の温水は難しいが、最近の建築物では、中温の熱を利用している事例もある。好気性発酵乾燥方式で熱を取り出すのは難しいと思うが、脱臭のチップは、温かいので低熱を取り出すことで、冬場の空調や車両の温水洗浄に利用することも可能なのではないかと思う。業者選定するときを検討してもらうことも必要ではないかと思う。
- 委員意見 : 必要面積は明確になっていないが、最終的にどのような施設にするかという計画を明らかにする方が分かりやすいと思うがどうか。
- 事務局 : 第2回策定会議で、リサイクル施設の具体的な検討、好気性発酵乾燥方式の規模を改めて見直しを行うことで、必要面積等を決めることを考えている。その中で、第3回策定会議で、コミュニケーションスペースや避難所の活用策といったプラスアルファの部分を検討できればと思う。
- 委員意見 : 何を建設するかによって建築面積が決まるので、意見をいただきたいと思う。
- 委員意見 : 発熱量、引取先の担保については、分かっていないと困ると思うがどうか。
- 事務局 : 引き渡し先についてはまだ明確に言えるところはないが、発熱量は、今年度検証をして取り組む。
- 委員意見 : 引き渡し先はかなりしっかりしてもらわないといけないと思う。
- 委員意見 : 興味を持っている企業もいくつかあるが、どのようなものがどれだけできるかによるところもあるので、意見を反映しながら明確に示せるようにしていきたい。

- 委員意見 : 勝浦町のごみも引き受けるにあたり、勝浦町もある程度費用を負担して運営することになると思うが、勝浦町民の意見は聞くことになるのか。
- 事務局 : あくまで小松島市の一般廃棄物処理基本計画の改訂にあたってのアンケートとなっているので、小松島市のみを対象としており、そこで勝浦町の意見をうかがうことは想定していない。施設整備を行うにあたっては、委託となるので、勝浦町の担当者の意見を聞きながら協議を重ねて進めていきたいと思う。
- 委員意見 : 徳島市の市長が代わったことで、計画が全て変わるということもあり得るのか。
- 事務局 : 徳島市に関しては、徳島市の方から時期や負担について具体的に話が来るかどうかによると思う。新聞報道では、本市が目指している施設整備時期と同時期であれば、話を伺うというような回答をしているが、現実問題として、今のスケジュールと同様のスケジュールで徳島市が本市以外の自治体を含む新たな枠組みで再度計画することは難しいのではないかと考えている。話を全く聞く気が無いというスタンスではないが、勝浦町と共同で行う方針で進めていきたいと考えている。
- 委員意見 : 徳島市とやるとなると、施設規模が変わってくるので、やり直さないといけないところが多く出てくる。徳島市との共同を推奨するものではないが、徳島市の動向は注意深く見ていきたい。

議題（５）リサイクル施設の整備検討について

リサイクル施設の整備検討について報告。

- 委員意見 : 現状において、金属・空き缶類、ビン・ガラス類については、資源化事業者が処理をしているのか。今回のリサイクル施設で金属・空き缶類、ビン・ガラス類、粗大ごみを施設の方で処理するというのを考えると、設備を新たに追加して整備するということになるのか。
- 事務局 : 現在、本市の金属・空き缶類については、純粋な金属部分と金属以外の部分が混じっているので、ヤードにおいて、大きく二つに分けている。金属のみを業者に引き渡して、業者の方で、スチール、アルミなどに細かく分けて分別している。資源化業者に引き渡した上で、有価で取引はしてもらっているが、リサイクル施設を整備して、今の区分より細かく分けることで、有価としての価値が高まると考える。
- 委員意見 : 今まで事業者の方で処理していたものを市のリサイクル施設の中で、事業者に渡さずに処理するという認識でよろしいか。
- 事務局 : 最終的には、資源化事業者の手に渡りますが、資源化事業者がやってい

た工程の一部を市の施設の方である程度やってしまうというイメージである。

委員意見 : 施設を建設することで、建設費用や維持管理費用などの多くの費用が必要になるが、自前で持つておくことのメリットは何か。

事務局 : そのあたりについては、第2回策定会議でこれだけの設備を入れた場合に、これだけの費用が見込まれるという様な、概算の費用を出した上で検討したいと思っている。

委員意見 : 一人当たりが負担しているごみの処理費用について、全国平均では1.4万円/人くらいだが、徳島県は、高くて1.8万円/人になっている。小松島市はどれくらいになるのかを提示していただきたい。

事務局 : 現状の処理費用を比較した資料を第2回場で提示したいと思う。

委員意見 : 1.8万円/人と大きいので、リサイクル施設自体がどのぐらいの負担若しくはメリットになってくるかということを費用面でも提示していただきたい。

委員意見 : リサイクル施設自体は少ないので、広域化すればどうかと思うがそういう話はないか。

事務局 : リサイクルでは、広域は入っていない。

委員意見 : 施設整備するにあたって、国からの補助金はどれくらいもらえるのかということが昨年からの課題になっているが、どうなっているのか。

事務局 : 基本構想では補助金について、具体的に明記されていなかったが、検討を重ねた結果、防衛省の民生安定施設助成事業の活用に向けて令和7年度の概算要求に向けた資料の提出を行っているところである。補助率は3/10となっている。

委員意見 : 好気性発酵乾燥方式の施設は環境省の補助金とは一致しないのか。

事務局 : 勝浦町と広域で行うことによって、環境省の交付率1/3の循環型社会形成推進交付金を活用できるが、循環型社会形成推進交付金では、好気性発酵乾燥方式の用地関係が交付されないため、リサイクル施設部分の用地しか交付金対象とならない。防衛省だと好気性発酵乾燥方式に関する用地部分も対象になるので、総合的に考えると防衛省補助に優位性が高いと考えて選定した。

委員意見 : 5つの議題について色々な意見をいただいたので、次回以降の会議に活かしていただきたい。